

第 5 号様式(第 7 条関係)

会議録

会議の名称	第 3 回清須市総合計画審議会
開催日時	令和 6 年 6 月 2 7 日 (木) 午前 1 0 時から正午まで
開催場所	清須市役所南館 3 階 大会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 《報告事項》 (1) 第 8 回 (令和 5 年度) 市民満足度調査 結果の訂正について 《審議事項》 (1) 第 3 次総合計画 序論・基本構想の検討について (2) 第 3 次総合計画 前期基本計画の検討について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 [会議資料] 資料①-1 第 8 回 (令和 5 年度) 市民満足度調査及び市政推進委員アンケートの結果について《訂正版》 資料①-2 第 8 回 (令和 5 年度) 市民満足度調査報告書 資料②-1 第 3 次総合計画 序論・基本構想案の修正点 資料②-2 第 3 次総合計画 序論・基本構想案 資料③ 第 3 次総合計画 前期基本計画素案 参考資料① 清須市総合計画審議会設置条例・清須市総合計画審議会の公開等 参考資料② 清須市人口ビジョン (令和 6 年改訂版)
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数 (公開した場合)	2 人
出席委員	後藤 (小) 委員、水野委員、後藤 (鈴) 委員、山内委員、後藤 (隆) 委員、時田委員、山田 (宗) 委員、佐藤委員、梶浦委員、渡辺委員、野田委員、水谷委員、山田 (康) 委員、齋藤委員、前田委員、伊藤委員、高山委員、横井委員
欠席委員	原委員

出席者（市）	永田市長、葛谷副市長、天竺教育長、河口企画部長、岩田総務部長、飯田危機管理部長、石田市民環境部長、丹羽健康福祉部長、長谷川建設部長、後藤議会事務局長、石黒教育部長、吉田監査委員事務局長
事務局	〔企画部企画政策課〕 林企画部次長兼企画政策課長、山口課長補佐、 神野課長補佐兼企画政策係長、秋山副主幹、岩田主任主査 〔株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所〕 江口支社長補佐
会議録署名委員	後藤（隆）委員、時田委員
1 開会 （林企画部次長兼企画政策課長） ただいまより、第3回 清須市総合計画審議会を開会します。 はじめに、審議会の開催にあたりまして、永田市長からごあいさつを申し上げます。 2 あいさつ （永田市長） 皆さま、おはようございます。この総合計画審議会も今回で3回目となりましたが、委員の皆さま方には大変お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、今回から新たに委員としてご就任いただいた方もおられます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 前回の審議会では、基本構想の素案と前期基本計画の骨子についてご審議いただきました。今回の審議会では、前回お示ししました前期基本計画の骨子をベースに23の各施策における目指す姿や達成度指標、そして具体的な取組の方向性等を盛り込んだ前期基本計画の素案を事務局で作成しました。本日は主にこの内容についてご審議を賜りたいと存じます。 さて、本市の総合計画の基本計画のなかで、政策2に「子どもの笑顔があふれるまちをつくる」というタイトルがございますが、先般ショッキングな数字が発表されました。それは、合計特殊出生率についてです。昨年の全国平均は、1.20と過去最低となりました。人口を維持していくためには、2.07を保つ必要があると言われており、ずいぶんかけ離れた数字になってしまいました。清須市の現状としましては、2018年から2022年の5年間の平均が先日発表され、1.78となりました。2.07からはかけ離れているのですが、愛知県下では第1位ということになりました。1位になったこと自体は喜ぶべきことですが、コロナの影響もあって、清須市も全国と同じように、出生数は減少しているのが現実でございます。そうした背景もあり、本市ではこの4月に「清須こども・はぐくみ宣言」を表明しました。組織の再編も行い、こども家庭課及びこども家庭センターをこの4月から設置し、妊娠・出産、育児と、一連の相談を受けるような体制を整えたところでございます。	

また、清須市は来年で市制施行 20 周年を迎えます。その P R のため、昨年からロゴマークの制作を行い、この度、鳥山明先生にデザインを手掛けていただくことができました。先生への感謝の念も込めて、このロゴマークを活用しながら、20 周年を皆さまでお祝いできるよう、周年事業に取り組んでいきたいと思っています。来週には、ロゴマークを使用した啓発品の記者発表をします。20 周年に向けても、皆さま方のご協力をいただければ有り難く思います。

改めまして、本日の審議会では、委員の皆さま方から、それぞれのお立場から今後の市の取組の方向性に対するご意見をいただき、清須市がよりよいまちとして発展していく指針となるような第 3 次総合計画をつくり上げていただきたいと思います。本日も活発なご審議をいただきますようお願いを申し上げまして、冒頭のごあいさつとさせていただきます。

(林企画部次長兼企画政策課長)

本日は、令和 6 年度に入って最初の審議会になります。各団体の役員の変更によりまして、今回から新しく委員としてご出席いただいている方が 3 人いらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。

【新たに就任した委員（3 人）を紹介】

(林企画部次長兼企画政策課長)

3 人の委員の皆さまには、お手元に委嘱状を配布させていただいておりますので、ご確認ください。

なお、本日、令和 5 年度 20 歳のつどい実行委員会の原委員は所用のためご欠席となっております。

また、本日の会議は委員 19 名中 18 名のご出席をいただいております、過半数を超えておりますので、清須市総合計画審議会設置条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立することを報告します。

それでは、ここからの議事進行は野田会長にお願いいたします。

(野田会長)

おはようございます。今回、新しく 3 名の方に参加していただいております。同じメンバーとして、建設的な議論ができればと思います。どうぞよろしくお願いします。

それでは、はじめに、会議録署名委員の指名を行います。本日の会議の会議録署名委員は、後藤隆之委員と時田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

前回の審議会では、市民満足度調査をはじめとするアンケート調査、市民参画会議の開催結果、現行の第 2 次総合計画の達成度指標の達成状況と評価について事務局から報告をいただきました。そのうえで、第 3 次総合計画の基本構想、そして基本計画の骨子について審議したところとなっています。本日の審議会では、特に基本計画の骨子を基に、事務局で作成された基本計画の素案について、時間をかけて皆さまと審議していけたらと思っていますので、よろしくお願いいたします。

3 議事

《報告事項》

(1) 第8回（令和5年度）市民満足度調査 結果の訂正について

（野田会長）

それでは議事に入ります。報告事項について、事務局から説明をお願いします。

（岩田主任主査）

【資料①-1、①-2 を説明】

（野田会長）

ただいま、市民満足度調査の訂正の報告がありましたが、傾向としてはそれほど変わらないという結論だったと思います。基本計画でも満足度の状況が示されていますが、得点化にあたり無回答は元々除外するものだったということで、散布図や平均点が少し変わりました。全体の大きな傾向は変わらないということです。皆さんからご意見等ございましたら、いただきたいと思います。

（後藤（隆）委員）

無回答を含んで得点化してしまったので今回訂正したということですが、無回答の率については、資料①-2 の 10～11 ページに出ています。この中、例えば子育ての項目では、他の項目と比べて無回答の率が高くなっていますが、その原因は何だと思われますか。

（岩田主任主査）

明確にこうだと言い切れるかはわかりませんが、子育ての分野で言いますと、例えば、未婚で子育ての経験がない方は、判断のしようがないというところで無回答を選択していて、その割合が高くなっているかと推測できます。

同様に、回答者ご自身で判断のしようがないと感じられた項目については回答しなかったというところで、施策間で無回答の数のばらつきが生じていると推測できるかと思います。

（野田会長）

全般的に前回より今回のほうが無回答の率が高くなっています。子育ての項目も前回より今回のほうが無回答の率が高くなっていますが、それ以外の項目でも無回答の率が高くなっているものがあります。先ほどの事務局の回答については私もそうだと思いますが、いかがでしょうか。

（後藤（隆）委員）

わかりました。

（梶浦委員）

アンケートについてですが、清須市に働きに来られている方や海外の方を対象とした調査も別に実施されているのでしょうか。

(野田会長)

今回のアンケートはあくまでも20歳以上の清須市民全体を対象に抽出を行って実施したものです。

(梶浦委員)

一定数おられる清須市に働きに来られている方がここに住みたいと考えてもらえるような市にすることが大事だと思うのですが、今回は対象でないのですね。

(野田会長)

各施策についてはもちろんそういう方のニーズを踏まえながら取り組んでいます。アンケートに関しては予算の関係もございます。外国の方や清須市に働きに来られている方向けのアンケートも実施は可能ですが、先ほど言った予算の関係やサンプルの取り方の問題も出てきます。したがって、全国的にもそういうアンケートは少ない状況です。今のご指摘は当然で、基本計画を策定する中そういうウェイトが大きくなってくれば再考する必要は出てきますが、今回は対象に入っておりません。

(梶浦委員)

高齢化が進んでくる中、若い人を呼び込むような魅力的な市にする必要があり、そのためにはどうすればよいかと思います。清須市がよいと思えば移住してくれ、そうすると子どもも増えます。市民以外を対象とした調査も長い目でみると効いてくるのではないのでしょうか。

(野田会長)

貴重なご意見だと思います。ありがとうございます。
他にはよろしいですか。では、次の議事に移ります。

3 議事

《審議事項》

(1) 第3次総合計画 序論・基本構想の検討について

(野田会長)

それでは、審議事項の(1)について、事務局から説明をお願いします。

(岩田主任主査)

【資料②-1、②-2を説明】

(野田会長)

前回、序論・基本構想案が示されました。序論・基本構想案に基づいて基本計画素案という話になってくるのですが、まずはこの序論・基本構想案について前回いただいたご指摘を反映したものがこの資料でございます。改めて、これでよいかということを聞きたいと思いますが、皆さんからご意見等ありますか。

最初のほうには序論として、計画の構成や期間、社会情勢等が書かれており、それから基本構想に入ります。基本構想のところには理念や将来像、7つの政策等の記載があります。これらについて前回ご意見をいただき、よりわかりやすくなったかと思いますが、ご意見等よろしいでしょうか。

そうしましたら、次期総合計画の序論・基本構想については、この案のとおり進めるということによろしいですか。

(委員一同)

異議なし

(野田会長)

ありがとうございました。それでは、次の議事に進みます。

3 議事

《審議事項》

(2) 第3次総合計画 前期基本計画の検討について

(野田会長)

それでは、審議事項の(2)について、事務局から説明をお願いします。

(岩田主任主査)

【資料③を説明】

(野田会長)

前期基本計画の素案となっており、各施策の取組などが具体的に書かれています。どういう観点からでも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

(高山委員)

資料③の48ページ、現状・課題の2点目で「子育てにかかる経済的負担に対して不安を抱えている人が多い」と言い切っていますが、これは資料①-2の36ページで理想の子ども数を結果的に持てなかった場合に考えられる原因として経済的負担が最も多くなっていることから来ていると思います。それから、資料③の19ページでは理想の子ども数を持てない原因として考えられることというように、言い回しが微妙に変わっています。一般市民でそんなところに気付く人がいるかはわかりませんが、問題がすり替わっているように感じて、私は違和感を覚えました。

(野田会長)

「子育てにかかる経済的負担に対して不安を抱えている人が多い」というエビデンスは、アンケート結果からですね。一般的に、経済的負担への不安を解消することについて経済的支援を行うというのはわかりやすいと思います。事実上、東京では子育て支援に潤沢にお金を投入していますが、経済的負担に対する不安ということ自体は間違っていないような気がします。経済的負担が軽減されるともう一人

子どもを持っても大丈夫という観点になると思いますが、「経済的負担に対して不安を抱えている人が多い」、この表現に違和感を覚えられているわけですね。

(高山委員)

元々のアンケートでは理想の子どもの数を結果的に持てなかった場合に考えられる原因は何かと聞いていますが、資料③の19ページでは聞き方が微妙に変わっています。

(野田会長)

現時点でも理想の子どもの数を持てていないという前提で回答していて、その原因が経済的負担に対する不安であると理解すれば大丈夫な気もしますが、どうでしょうか。

(高山委員)

資料①-2の36ページでは、理想の子ども数を結果的に持てなかった場合に考えられる原因としてグラフが示されていると思います。一方、資料③の19ページのタイトルは理想の子ども数を持てない原因として考えられることとなっていますが、元々のアンケートでは理想の子ども数を結果として持てなかった場合に考えられる原因を聞いているような気がします。

(野田会長)

確かに引用・参照の過程で強めの仮定になっている部分がございます。資料③、19ページのタイトルの表現を変えるということによろしいですね。

(高山委員)

もうひとつ、105ページの取組2に「デジタル化の推進」とあって、内容が「DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進」ですが、デジタル化とDXは微妙に違うと思います。DXで統一してもよいのではないのでしょうか。

(野田会長)

IT、ICTと言っていたものを全部含む概念として、デジタル化という言葉になったのですが、途中でDXの話が出てきました。DXとはデジタル化に関わる技術が全部連携しながらいろいろな情報を入手・駆使できるという社会を描いていると思います。ただ、事実上そうなっていると言いづらい社会においてもDXと結構言っています。IT、ICT等の全部を踏まえる概念としてのデジタル化の中にDXが入っていると捉えればよいと思いますが、事務局としてはどうですか。委員のご意見としては、見出しを例えば“DX化の推進”にしてもよいのではないかと思います。それで、それも有り得ると思いますが、いかがでしょうか。

(岩田主任主査)

会長がおっしゃったようにデジタル化にはDXの推進も含まれ、より広い概念ということでこのような見出しにしております。ただ、一般的に、例えば市民の皆さ

まがこれを見たときに、誤解や違和感を覚えられるようでしたら、再考の余地はございます。

(野田会長)

ただ、DX化としてしまうと庁内で事業を取り組んでいくときに違和感が出てくるような気がします。本来、DXというのはもう少し次元の高いものですが、日本におけるDXは事実上デジタル化の話だからです。したがってデジタル化のほうはまだよいかという気もしますが、ご意見として承りたいと思います。もう一度事務局でご検討ください。

(高山委員)

今の「デジタル化の推進」のところに戦略③という記載があり、この戦略③とはどういうことかと思いました。結果として31ページの枠の中に説明があったのでわかりましたが、ここにあがっている101の施策のページでは、取組の中に戦略に位置付けられている取組がないので、余計に分かりづらくなっているように感じます。

(野田会長)

そうですね。施策ページの見方の施策を戦略の記載があるものに変えるか、変えない場合は追加の説明が必要だと思います。

(高山委員)

また、31ページの上にあるSDGsの17のゴールが小さくて読めません。タイトルに何が書いてあるかぐらいは目につくようにしていただければと思います。

(野田会長)

今、資料がモノクロで少し見づらいということもあって、最終成果物はより鮮明でわかりやすくなると思いますが、今の資料をパブリックコメントで提示する際、解像度を上げるなどの工夫をお願いします。

他にいかがでしょうか。

(後藤(小)委員)

全体的なレイアウトが大変見やすくてよいと思いました。各施策の横にSDGsの達成目標のマークが入っており、今の時代に合っています。清須市に住む若い人からお年寄りまで、みんな共通で見ることができるものだと思います。目指す姿も太字でわかりやすく、これも大変よいレイアウトになっています。

内容については、教育委員の立場として関係するところを主に見せていただきました。48～49ページの施策201は現状と課題がきちんと盛り込まれて表現されており、それに対する取組内容もこれでよいと思いました、50～51ページの施策202も全体的によいのですが、取組4「地域における子どもの居場所づくり」の内容の「こども」、平仮名での記載が気になりました。子育てや教育関係でも漢字と平仮名の使い分けは法律等で決まってくると思うので、確認をお願いします。52～53ペ

ージの施策 203「学校教育の充実」に関してですが、時代が変わり学校現場もいろいろな課題を抱えております。その中、現状と課題が漏れなく記載されており、内容も今後力を入れて取り組んでいくことについてきちんと記載があるのでこれでよいと思います。90～91 ページの施策 601、生涯学習活動のところについても重要度と満足度を得られるような取組の内容が掲載されているのでよいと思いました。92～93 ページの施策 602、スポーツに関することも市民全員がスポーツに親しめる、そういう明るい気持ちになれる内容になっているのでよいと思います。94～95 ページの施策 603 ですが、多文化共生や国際交流、ジェンダーなどのこれからのあり方というのがポイントを押さえてまとめられており、全体的に共感できる内容になっていると感じます。

(野田会長)

全体的にご賛同いただいているということでした。51 ページの取組 4 の内容で「こども」と平仮名表記になっている件について、事務局から何かありますか。

(岩田主任主査)

今ご指摘いただいた箇所については単純な誤植かと思います。「子ども」の表記については、ご指摘のとおり漢字表記、平仮名表記という使い分けがあると思いますので、再度全体を通して確認させていただきます。

(伊藤委員)

目指す姿が各施策のはじめに載っていますが、目指す姿とは目標だと思います。全体的に“こういうまちになっています”という表現が多いのですが、“こういうまち”と言い切ったほうが個人的にはしっくりくると思いました。

(野田会長)

今の目指す姿は「選ばれるまちになっています」のような文章ですが、委員からは体言止めで“選ばれるまち”にしたほうがよいというご意見をいただきました。事務局として「なっています」という表現にこだわっているわけでもありませんよね。

(岩田主任主査)

こだわっているわけではありませんので、再検討は可能です。

(水谷副会長)

ビジョンや将来像では“なっている”と意識することで実現に近づくとされています。一方で、体言止めにすることで力強さが表現できますので、私は個人的によいと思います。

(野田会長)

施策 302 のように文章にせざるを得ないものもあります。ただ、最後を“まち”に変えれば問題ないかもしれません。皆さんはどちらがよいですか。

(後藤(隆)委員)

私も“まち”で止めるほうがよいと思います。

(野田会長)

逆に、今のほうが違和感を覚えないという方はいらっしゃいますか。おられないようですね。では、本審議会としては“まち”で止めるほうがよいと提案したいと思います。

他にいかがでしょうか。

(横井委員)

28 ページの7つの政策を読みましたが、市役所の中を活性化することは考えられていないのかと思いました。例えば市民が利用できるカフェを市役所内に設置し、そこを市民の居場所、憩いの場にするといったようなことです。

また、52 ページの現状・課題の4点目に「学校へ行くことが難しい子どもの居場所として『教育支援(ふれあい)教室』を開設しています」とあるのですが、これは教育を受けたい子が行く教室なののでしょうか。学校に行けない子どもの居場所をこれからどのように考えていくのですか。実際そういう子どもが周りにとても多く、家から出られない子もいます。私自身が、そういう子を外に出られるような場所を運営するボランティアをしておりますので、この辺りが気になりました。

(野田会長)

1つ目のご意見は、市役所内の憩いの場の設置について対応できるかどうかということですね。

2つ目ですが、確かに子どもの居場所についてはケアを必要とする子どもが行く場所なのか、それとも普通に行く場所なのかという、その辺りの違いも明確に把握したいところです。

(岩田主任主査)

1点目にご指摘いただいた部分ですが、104～105 ページの施策 703 をご覧ください。105 ページの取組 4 に庁舎や公共施設の話が出ております。カフェなどの具体的な話は盛り込んでいませんが、今おっしゃったことは取組 4 の内容「市民が利用しやすい市役所づくりを推進します」のところに含まれるもののご理解いただけたらと思います。

(野田会長)

子どもの居場所についてはどうでしょうか。

(石黒教育部長)

ご質問があった中で、まず、教育支援教室というものがどういったものかという点についてですが、最近なんらかの理由によって登校できない子どもが全国的に増えており、本市においても同じような傾向がみられます。そういう子どもが少しでも外とつながれる場所として、ふれあい教室という名称に変えて2か所目を造る予

定がございます。こういった取組により、今後も登校できない子どもに対して学習の場を提供していきたいと考えております。

(野田会長)

これは子ども全般が行くものではなく、教育の場において、ケアが必要な子どもを対象とした居場所づくりを進めていくということですね。

(横井委員)

そういうもの以外で、子どもが自然に自分らしくいられる居場所というイメージですと、なにかできることはあるのでしょうか。

(丹羽健康福祉部長)

教育支援教室は、登校できない子を対象にした学校に代わる場所ということになりますが、もっと広い意味での子どもの居場所づくりにつきましては、51 ページの取組4「地域における子どもの居場所づくり」という取組を進めていきます。具体的に申し上げますと、地域共生という観点から地元ボランティアの方にご協力いただき、例えば、子ども食堂のような子どもの居場所を、各小学校区に設置していけたらと考えています。

(野田会長)

わかりました。他にいかがでしょうか。

(山田(康)委員)

資料①-1、市民満足度調査の修正後の表を見ますと、重要度が高く満足度が低いものに防犯があります。一方、重要度が同じく高い子育てや学校教育で満足度がある程度高いことに驚きました。国全体をみれば出生率が下がり人口も減って、何もしなければ清須市も同じ状況になります。そうならないためにどうするのか、つまりは人口流入を促進するということをもう少し計画に載せてはどうかと思います。まち・ひと・しごと創生総合戦略でも、選ばれるまちにするという目標が掲げられています。市外の方が名古屋市ではなく清須市を選ぶという状況を計画の中に打ち出し、もう少しアピールできないかと思います。子育て中の方が清須市を選ぶためには、防犯が非常に注目すべき点になります。ただ、資料③で防犯の項目をみると、子どもの関係は登下校の見守りくらいです。ここにもう少し子育て世代の方にアピールできる、子どもの安全を守るような内容が入ればと思いました。

施策 203「学校教育の充実」にはしっかりした内容が書かれていますが、学校運営はきちんとできているのでしょうか。学校の先生の仕事環境は非常に厳しいので、それに対するサポート、例えば部活動の地域移行の話が出てこないことが気になります。清須市を選んでもらえるようなことを文章化していただければと思います。

(野田会長)

総合計画は清須市の最上位計画です。この中に土地利用に関する都市計画マスタ

ープランがあり、人口ビジョンを踏まえたまち・ひと・しごと創生総合戦略があります。全体として人を呼び込むような書きぶりができないかというご意見だったかと思いますが、政策1が「安全で安心して暮らせるまちをつくる」政策2が「子どもの笑顔があふれるまちをつくる」といった構成で、重要な政策が上に来ています。ただ、清須市として特出しできることをすぐに示しにくい部分もあります。都会から離れて自然豊か、しっかりしたコミュニティといった売りはありますが、市外から来る人が移住しようと思ってくれるような打ち出し方ができないかということですよ。重要な政策を上を持ってくる以外の方法を思いつかなかったのですが、委員のお考えとして何かありますか。

(山田(康)委員)

子どもを対象とした防犯ですね。高齢の方に加え、子育て世代にとっても安心できるような施策を書き込んでほしいと思います。

(野田会長)

市民満足度調査において、防犯は重要であるものの実情として満足されていないという結果が出ました。子どもに関する防犯の内容が少ないため、子どもというキーワードを入れ、子どもを大切にしているまちとアピールすることも重要かと思います。子どもを守っていく取組をもっと載せるよう、事務局でご再考ください。

他にいかがでしょうか。

(渡辺委員)

子ども手をつなぐ親の会では当事者も親も高齢化しており、8050問題が実際に起こっています。また、うちの会には若い親御さんもおられ、幅広い年齢層となっています。65ページの取組2「障がいのある児童への支援」の内容に「障がいのある児童の自立を促進するため、児童福祉法等に基づく療育支援を行います」とありますが、もう少し具体的に書けませんか。障がいのある子をもつ親御さんは幼稚園で加配してもらえるのか、地域の小学校に行けるのかと大変心配されています。もう少し具体的に書いていただければと思います。

(野田会長)

今以上に具体的な内容を書くことができそうな気もしますが、いかがですか。

(岩田主任主査)

今いただいたご意見を含め検討したいと思います。こういったことをここに盛り込めないかという具体的なご意見をいただければ、非常に有り難く存じます。

(渡辺委員)

会員に聞くと、医療的ケア児の問題もありますし、保育園での支援や相談体制の整備が必要だと思います。

(永田市長)

児童発達支援センターが来年3月に開設予定ですので、そこで相談支援を受けることができると思います。そういう児童発達支援センターのことも含めた文章を入れればよいかなと思うのですが、いかがでしょうか。

(渡辺委員)

よいと思います。児童発達支援センターは今まで清須市にはなく、ずっと希望してきたことです。来年3月に開設なのですね。

(永田市長)

国の採択が厳しかったのですが、なんとか受けることができて、今、建設中です。来年の3月に開設と聞いています。障がいのあるお子さんの相談にも応じられると思いますので、それも含めて表現を考えさせていただきます。

(野田会長)

他にいかがでしょうか。

(梶浦委員)

資料①-1、市民満足度調査のマトリックス表ですが、大変面白くてわかりやすくまとめられていると思います。この表の各施策のポイントについて、前回との比較はできませんか。そうすれば悪くなった施策と良くなった施策の見える化ができると思います。そういう比較の表はありますか。

(野田会長)

市民満足度調査はこれまで8回実施しています。資料③の各施策のところに重要度・満足度の推移がございして、重要度・満足度の割合が時系列で示されています。施策間の変化はここには出ていませんが、それについては行政改革推進委員会で議論が行われています。

(梶浦委員)

ここがこう変わったとわかるような形にはしないということですか。

(野田会長)

行政改革において、今回はどの施策を対象にするかを決めるのにこの表を活用しています。これは総合計画ですので、特定の施策に注力していくような形でのお示しはしておりません。

(梶浦委員)

ポイントはどんどん変わっていくものだと思います。前回と比較してもし悪くなっていれば対策を講じる、良くなっていればさらに充実させるということができるのではないのでしょうか。

(後藤(隆)委員)

施策 201「結婚・出産・子育て支援の充実」ですが、達成度指標にしても現状・課題にしても結婚の話が抜けています。取組 2 にだけ「婚活イベント等の実施」と書かれていますが、わざと結婚にまつわる取組は避けているのでしょうか。

(野田会長)

未婚・非婚は少子化になる最初の入口だとよく言われます。事実上、市としてできるのは婚活イベントぐらいだと思うのですが、それ以外にでき得ることはありますか。

(岩田主任主査)

現状、市で具体的な結婚支援の取組というものはできておりません。第 3 次総合計画を検討するにあたり、今後、そういった支援も必要ではないかと考え、婚活イベントの実施ということで今回から盛り込んだものとなります。過去には、商工会の青年部主催での婚活イベントが実施されたりといったことはございましたが、第 3 次総合計画が始まる令和 7 年度からは、市が主体となり、結婚支援を行っていくということで、これからスタートしていくものになります。

(野田会長)

結婚に関する取組を意図的に外しているというよりも、具体的な結婚促進につながるものが婚活イベントぐらいで、それ以上、市の取組として記述することが難しかったということですね。

(後藤(隆)委員)

わかりました。

(野田会長)

他にいかがでしょうか。

(水谷委員)

2 点ございます。

1 点目ですが、資料②-1 にあるように、ダブルケアの問題を認識していただいたことを非常に有り難く思っております。こういう認識を基に施策や取組に反映いただければよいと思います。こういったところの今後の進め方について教えていただけますか。

2 点目はまち・ひと・しごと創生総合戦略にも関わりますが、資料③の 80～81 ページ、施策 501「観光の振興」の取組 1 はレンタサイクルの活用、取組 3 は地域内の交流をより便利にしていこうという内容で、これはある意味交通施策でもあります。そして 72～73 ページ、施策 402 の取組 5「公共交通の充実」には「あしがるバス」の運行という内容が載っています。つまりは縦割りで、交通の部署と観光の部署の連携は難しいかと感じています。そこで縦割りでなく横でつながるところで、104～105 ページ、施策 703 の取組 1「行政改革の推進」の内容に部署の連

携のような内容を入れていただければと思います。例えば有識者会議もまち・ひと・しごとの会議と交通の会議は別に行われていますが、重要な論点については合
同で協議するなどの新しい取組もあり得るのではないかと考えております。

(野田会長)

2点目の縦割りについてですが、市町村が自ら縦割りになる要素はかなり少ない
と思います。国の縦割りの中、市町村としてはそれを横串にさそうと努力している
のが現状です。別々の計画で一緒に議論するのは事実上難しい気がしますが、同じ
ような論点であれば一堂に会することもご検討いただければと思います。

1点目のダブルケアに関する話について、事務局から何かありますか。

(岩田主任主査)

ダブルケアを含めた課題への取組としましては58～59ページ、施策301の取組1
「重層的な支援体制の構築」がございます。内容としては「地域共生社会の実現に
向けて、介護や障害、子育て、生活困窮といった、あらゆる困りごとを総合的に支
援することができる、市役所内の組織横断的な相談支援体制を構築します」とうた
っています。こういう取組を進めていくことで、ダブルケアをはじめ複合的な課題
を抱える家庭を支援できるというところにつながるかと感じております。

(野田会長)

他にはよろしいですか。本日も、活発にご意見を出していただいてありがとうござ
いました。それでは、次期総合計画の前期基本計画につきましては、この素案を
ベースとしつつ、今日いただいたご意見を踏まえたうえで、事務局の方で、次回ご
審議いただく案を作成するという方針でよろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし

(野田会長)

ありがとうございました。

4 閉会

(野田会長)

本日予定していた議事は、これですべて終了しました。以上で議事を終了としま
す。それでは進行を事務局にお返しします。

(林企画部次長兼企画政策課長)

第4回の審議会は7月31日、水曜日、午後1時30分からの開催を予定しており
ます。正式なご案内につきましては改めてお送りさせていただきますので、よろし
くお願いいたします。

それでは、以上で、第3回清須市総合計画審議会を閉会します。

本日も長時間にわたりご審議を賜りまして、ありがとうございました。

会議の経過を記録して、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署 名 委 員	後 藤 隆 之
署 名 委 員	時 田 栄 一